

きらめき

vol 42
2025.1.10



安心してすごして
いただくために

発行／社会福祉法人 北星会 編集／広報誌編集委員会

〒626-0033 京都府宮津市字宮村1277 TEL：0772-22-8233 FAX：0772-22-8477

ホームページ：https://hokuseikai.or.jp Eメール：info@hokuseikai.or.jp

「もしもの備え」

～いざという時のために～

天橋園

天橋園居宅介護支援事業所では、ご利用者やご家族にとって日常生活を送るために欠かせない介護サービスや、自然災害や感染症など緊急事態が起こっても、継続的にまた早期に提供できるように平常時から備える計画である業務継続計画（BCP）※（Business Continuity Plan）を昨年度作成し、今年度は利用者台帳の見直しと自然災害の研修、机上訓練を行いました。

防災グッズの準備や家具の固定など「もしもの備え」について意見交換からはじめ、訪問先で地震が発生したら自分はどう行動できるか、ご利用者が怪我をされた場合はどう対応するかなどを話し合い、ご利用者宅での安全対策や備えについて情報提供が必要であると感じました。

また、災害により固定電話が使えないと想定した訓練では、災害やご利用者の状況などの情報収集手段、利用者台帳を用いた自宅や避難所への訪問体制、安否確認後の関係機関への連絡などのシミュレーションを行い、施設内での協力体制作りや地域包括支援センターや地域との連携の大切さを再認識しました。

石川県で震度7の地震が起きて丸1年。地震速報もよく目にします。平成16年には天橋園も台風23号により大きな被害を経験しました。自然災害はいつ起こるか予測はつきませんが、被害を小さくとどめる減災を意識し、緊急事態が発生しても介護サービスの継続や早期に再開できるように、今後も研修や訓練を繰り返し行っていききたいと思います。



加悦谷分署 合同救命訓練

与謝の園



宮津与謝消防署加悦谷分署の指導・協力のもと、与謝の園において初めてとなる消防署との合同訓練を実施しました。今回は「18時頃、食事中、のどに物を詰まらせた80歳男性を発見。心肺停止状態の想定」で行いました。人形を使い、傷病者発見から意識確認、異物除去、心肺蘇生、インカム使用にて協力者要請、AED使用（訓練用）、119番通報、救急隊への状態伝達、救急搬送の流れで行いました。

実際に人形やAEDを使用した救急隊との訓練は、張りつめた雰囲気の中とても緊張感があり、訓練に参加した職員は「とても緊張した。」「心肺蘇生はとても疲れる。」など、緊張感と大変さを実際に感じ取ることができました。

胸骨圧迫は、1人2分間が基本とされており、職員が交代しつつ実施することで継続した対応ができる事を学びました。

高齢者施設においては、窒息や心肺停止がいつ起こるか分からないと想定し、実際に起きたときに慌てず的確に対応することが求められます。与謝の園では、日々の訓練やシュミレーションを定期的に行い職員全体が協力し、ご入居者の安心、安全な生活を守っていきます。



非常食提供訓練&

報告会 — なぎさ苑

10月19日（土）、なぎさ苑ではライフライン被害（停電・断水・ガス停止）を想定した「非常食提供訓練」を実施しました。この訓練は、非常時においても適切な食事を提供するために重要な取り組みです。

今回の訓練では、1階に保管してある非常食や水を職員が階段を使って各フロアへ運搬する手順で実践しました。この運搬訓練を通じて、非常時に迅速かつ安全に必要な物資を届ける方法を確認することができました。

2階および3階の各フロアでは、非常食を使用した調理を行い、ご利用者の皆様に食べていただきました。食後には「思ったよりおいしいわ」「ちょっとパサパサやな」「あんまりおいしくないわ」などといったご意見をいただいたので、今後の非常食の選定や提供方法に活かしていく予定です。

また、訓練当日に参加していない職員も非常食提供について理解できるように、訓練報告会を実施しました。この報告会では、訓練当日の様子を共有し、参加職員が回答したアンケート結果やご利用者の感想を報告することで、施設全体で非常時の対応について考える機会となりました。

今回の訓練を通じて、非常時における食事提供の重要性とその手順を再確認することができました。今後も定期的に訓練を実施し、ご利用者の皆様が安心して過ごせる環境を整えていきます。



災害時への

備え

11月11日（月）14時00分、宮津与謝消防署と合同で大規模訓練を実施しました。京都府北部を震源とする地震が発生し、最大震度は宮津市で震度7。地震の影響で1階機械室の電気配線から出火、建物の一部が倒壊し2階ベランダに介護員とご入居者が取り残されているという想定です。

訓練が始まると消防署から指揮車、ポンプ車、救急車、救助工作車が順次到着し、救助活動を開始。各指揮の下、連携を図り迅速かつ確実に救助を実施されていました。また、宮津市消防団栗田分団の皆様も訓練の様子を見学されました。施設の避難誘導については、93名のご利用者を安全な場所へ誘導し、職員間の連携や有事の際の動きを再確認しました。今後も地域との連携や消防署との訓練を実施し、いつ起こるかわからない災害に対し十分な備えを行い、天橋の郷のご利用者や職員の安全が確保できるよう努めます。

また、天橋の郷には、災害時に屋外で調理を行える炊き出しセットを備えています。

11月14日（木）には、この炊き出しセットを使って恒例の青空食堂を開催しました。今回のメニューは、牛丼、さつまいもサラダ、だし巻き、みかんです。

この日は、100人分を調理できる大鍋で調理スタート！30分ほどでお米は炊き上がり、具だくさんの牛丼からはいい匂いが漂い始めます。若手調理員が絶妙な味付けをし、「完成」。綺麗に盛りつけ熱々の牛丼を青空の下でいただきました。ご入居者の皆さんも笑顔が溢れ、普段小食の方もこの日はかなり沢山食べていただきました。

今後もこのような企画を実施しながら「災害時にも強い天橋の郷」と言われるように努めてまいります。



うちのスタッフを紹介します — なぎさ苑



- 氏名…平野 達也
- 勤続年数…2か月
- 所属…一般療養棟
- 職種…看護師

◎1日の仕事の流れ、仕事内容【日勤業務】

〈午前〉

- バイタルサイン測定（脈拍・呼吸・体温・血圧・意識レベル）

発熱があるかないかご入居者全員の体温を確認し、体調管理と感染予防に努めています。

ご入居者が入浴される際には、バイタルサインを確認し入浴しても問題ないか判断しています。

また、体調を崩されている方や入苑して間もない方はバイタルサインを適宜確認し状態に変化がないかアセスメントを行っています。アセスメントに悩む際にはリーダーに相談し、必要であれば医師に報告し指示を仰ぐことになります。

- リーダー業務補佐

バイタルサイン測定が終了すればリーダー業務を手伝います。リーダーが入退苑のご入居者の対応を行うので、リーダーに声をかけ確認しながら業務がスムーズに進んでいくように協力しています。

- 昼食配膳、食事介助、配薬

介護スタッフと共に配膳を行います。水分にトロミが必要なご入居者には、名前間違いに注意をしています。食事介助をする際にも誤嚥されていないか、嚥下できているか観察しながら食事介助を実施しています。初めて食事介助を実施するご入居者の場合、介護スタッフに注意点や普段の摂取状況を教えてもらい食事介助を行っています。

〈午後〉

- 入浴介助、処置

一日を通して入浴が予定されており、午前と午後でスタッフが交代します。主に介護スタッフが入浴介助を行い、看護スタッフは医療処置が必要なご入居者の処置を行っています。一日で十数人の入浴介助を行うため、安全でスムーズに進行出来るよう介護スタッフと協力して実施しています。

また、ご入居者のADLに合わせた介助を行い、ADLが低下しないように努めています。

- おやつ、ホールの見守り

15時になると、おやつ時間でご入居者がホールに集まります。

ご入居者とコミュニケーションを取りながら見守りを行います。

- 夕食配膳、食事介助、配薬

昼食と同様です。日勤勤務の18時までがんばります。



◎この仕事を始めた理由

病院の脳外科で長年勤務していました。ADL自立だった方が、突然脳卒中で麻痺が出て入院されてくることも少なくありませんでした。社会復帰・在宅復帰に向け療養生活の中でできるADL拡大に向けた取り組みを考え患者さんと実施する事もありました。急性期治療が終わるとリハビリ目的で転院される方や施設に行く方が多く、在宅に帰るまでの過程について興味を持ちました。地元に戻ろうと決め転職先を考えた時に、リハビリを行い在宅復帰を目指す老健施設に魅力を感じ、また祖父母が利用しているなぎさ苑で働けたら良いと考えました。祖父からは「なぎさ苑は良い所だよ！」と話を聞き採用試験を受けることを決めました。

◎この仕事の魅力、やりがい

私は「寄り添うこと」を大切にしたいと思っています。病院で働いているときは業務に追われ気持ちに余裕がなく、また時間的にも余裕がなく勤務時間内に業務を終わらせないといけないと必死でした。そのため患者さんとの世間話でも忙しいことを理由に会話をやめないといけないことに申し訳なく感じていました。しかし今では、なぎさ苑で働き始め業務に追われることはなく、ゆっくりと話を聞くことができます。また認知症のご入居者とTVを見ながら世間話をして一緒に過ごすこともあり、老健施設で求められる看護について考える機会になっています。一緒に過ごす時間の中でご入居者と関係性を築き、楽しい時もしんどい時も寄り添っていける看護師でありたいと思っています。

◎この仕事をしていて大変なこと

ご入居者の状態が変化したときにアセスメントや、その後の対応をどうするか判断していく責任があるので、緊張感を持っています。状態が不安定な方はそう多くはないですが高齢の方が多く、いつ何が起こるか分からないのは病院で働いていた頃と変わらないと思っています。

◎休みの日の過ごし方、趣味、特技

TVを観たり、ミステリーやホラーが好きなので映画を観て過ごしています。連休で休みが取れた時は、コロナ禍に始めたキャンプに行っています。ソロキャンプに出かけたり、先日は友人と岡山県まで行って、キャンプ飯を作ってお酒をおいしく楽しみました。

◎今後やってみたいこと

昔していたスキーやスノーボードにまた挑戦したいです。あとは雪中キャンプにも興味があり、良い場所がないか調べているところです。



◎就活中の方へのメッセージ

病院勤務と比べて、業務が忙しすぎて複雑で困ることはないと思います。先輩看護スタッフが傍にいてくれる環境で、フォローしてくれるので心強いです。

※アセスメント…客観的に評価する ADL…日常生活動作

マルベリーホールを 地域の皆さんに

与謝の園



与謝野町加悦奥地区にお住まいの方から、地区のサロンの会場として、新しくできた与謝の園マルベリーホール（地域交流スペース）を使用したとの希望があり、加悦奥サロンが与謝の園で開催されました。前半は与謝の園新築移転の経緯や施設概要の説明と施設内見学、後半は施設長のオリジナルの脳トレ大会に参加いただきました。初めて来園された方もあり、施設玄関やホールを見て「まるでホテルみたい！」と驚いておられました。後半の脳トレでは、前田施設長の軽快なトークに、皆さん笑顔で参加されていました。

与謝の園では、今後も地域の方々に様々な形で施設を活用いただき、皆さんが気軽に立ち寄ることのできる身近な施設になれるよう努めてまいります。

グループホーム天橋の家



「いつになったら山が色づくんやろ〜」「今年はいつまでも暑いなあ〜」と窓の外を眺めてご入居者と話していたのはつい先日。

急に肌寒くなり、気がつけば山々が紅葉し始めてる。これは今しかないと、大江山方面へドライブに出掛けて来ました。

久しぶりのドライブに、「うわあ！胸がスツとする！」「すごい！綺麗！」「あそこ見て！」

と終始皆さんお喋りが止まりませんでした。思わず、秋の歌を口ずさむ方もいて、とっても賑やかな秋の1日となりました。

施設内は、もう次の季節に…GH天橋の家の玄関には、ご入居者が飾り付けられた大きなクリスマスツリーが飾られています。その他にも、季節に合わせた作品を飾っています。お近くへお越しの際は是非覗いてみてください。



秋の紅葉

ドライブ



はま

フェス

はまなす苑



はまフェス1stと題し、地域参加型のお祭りを2日間にわたり開催しました。

はまなす苑では以前より由良地区の皆さまと交流できるような大きなイベントを計画していましたが、感染症等により今回が初めての開催となりました。

メインステージでは地域で活動されている「めだかバンド」、「由良踊り保存会」の皆さまに盛り上げていただき、模擬店でも地域から「安寿亭」、「由良オリーブを育てる会」の皆さまに出店していただき即売商品も出るなど大盛況でした。

今回の催しではまなす苑の中の様子を地域の皆さまに知っていただける良い機会となりました。また、会場では同じ地域に居ながらなかなか会う機会がなく、何年振りの再会に涙される方もありました。今後はまなす苑の様々な活動を発信し、由良地区の皆さまから愛され、頼られる施設にしていきたいと思っております。



与謝の園祭り

新施設に移転して初めての与謝の園祭りを開催しました。ここ数年は、感染症拡大防止の為、お祭り自体が中止の年や、規模を縮小しご入居者のみご参加のお祭りが続いていました。今年は、職員一同で話し合い、ご入居者・ご利用者、ご家族、職員が一緒になって笑いあい、楽しめるようなお祭りになるようにと考え、「ともに生き、ともに支える」の施設理念をもとに、～シン 与謝の園～をテーマとしたお祭りを開催しました。

宮津天橋高校（加悦谷学舎）の合唱部による歌をはじめ、はしだて一座による大道芸、ご家族と一緒に楽しめるゲームコーナーや模擬店等、たくさんの方で賑わいました。皆さん高校生のハーモニーにうつろし、大道芸では、一緒にお皿を回したり、歌ったり。ゲームでは、職員と真剣な眼差しでのじゃんけん勝負や、欲しい物をめがけてのわなげ。ご家族と一緒に、職員も一緒に、たくさん笑いました。

また、ホッと一息、模擬店コーナ

ーでは、与謝の園特製のしつとり柔らかドーナツと大きなエビせんべいを出店。皆さんに「これが食べたい」と選んでもらい、好きな物を食べ、ほっこりとした時間が流れました。

最後には、与謝の園祭り恒例の炭坑節を皆で踊り「掘って～掘って～、また掘って～」と掛け声がとびかい、皆で楽しく踊り、笑顔満載でした。

来年は、与謝の園創立40周年。次回は今年よりもさらに盛大に地域の皆さんにもご参加いただき、一緒に楽しめるお祭りを開催したいと考えています。今から計画するのが楽しみです。



編集後記

北星会 法人広報誌「きらめき」42号の発行となりました。今号は様々なアクシデントを想定した対応について各拠点の取り組みを紹介しました。

以前、宿直員を勤められた消防OBの方が「訓練は実践のごとく、実践は訓練のごとく」と話された言葉が思い出されます。

地域に貢献できる施設・事業所づくりのためにも日頃の備えが大切であることを改めて教えられました。



↑
ホームページはコチラ